

## 科学研究費補助金研究成果報告書

平成 25 年 6 月 7 日現在

機関番号：34310

研究種目：特定領域研究

研究期間：2006 ～ 2011

課題番号：18078009

研究課題名（和文） グローバル時代のローカル・コモنزの管理

研究課題名（英文） Management of Local Commons in the Age of Globalization

研究代表者

室田 武 (MUROTA TAKESHI)

同志社大学・経済学部・教授

研究者番号：40104749

研究成果の概要（和文）：国内外におけるコモنز研究の包括的文献サーベイと国内外でのフィールドワークによる実証的研究を行った結果、ローカル・コモنزの領域を健全に保つには、①外部主体と地域共同体が協働して資源管理を進める協治戦略に加え、②敵対的な外部主体に対しては必要な抵抗をなす準備が必要であり、その両者を相互補完的に組み合わせることがローカル/コモنزの長期持続性にとっては重要であるとの結論が導かれた。

研究成果の概要（英文）：Our project team conducted both theoretical surveys on the commons and field studies in Japan as well as foreign countries. As a result, it concluded that it is fundamentally important for well-organized community with rich natural resource to adopt the two strategies; 1) collaborative governance, 2) resistant approach to external impact. Collaborative governance is defined by Makoto Inoue that long-enduring resource management system should be built up through cooperation and collaboration with such outside actors as NPOs, municipalities and so on. Conversely the resistant approach conceptualized by Gaku Mitsumata and Haruo Saito is the response to hostile external actors that impose only a negative impact on the commons.

Clarification of the design principles for complementary environmental resource policies integrated with 1) collaborative governance and 2) resistant approach remains as a matter to be discussed further.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	13,000,000	0	13,000,000
2007年度	13,000,000	0	13,000,000
2008年度	13,000,000	0	13,000,000
2009年度	13,000,000	0	13,000,000
2010年度	13,000,000	0	13,000,000
2011年度	13,000,000	0	13,000,000
総計	78,000,000	0	78,000,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：

キーワード：コモنز、ガバナンス、協治戦略、抵抗戦略

## 1. 研究開始当初の背景

エリノア・オストロムのノーベル経済学賞受賞（2009年）が、よく物語っているよう

に、北米や欧州ではすでにコモنز研究の興隆は目覚ましいものがあった。

一方、日本においても、多分野においてコ

モンズ研究が展開していたが、いずれも①既存の学問分野内での議論にとどまる傾向にあり、かつ、②海外のコモンズ研究の成果との接点を探る試みを欠く傾向にあった。また、実践的な視点からいえば、日本の入会林野や漁業協同組合などの制度的枠組みを強く規定する法学諸領域と連携した議論の欠如が見られた。

## 2. 研究の目的

グローバル時代における地域主導の環境ガバナンスのための条件を提示することを目的とした。より具体的には、1. グローバル時代におけるローカル・コモンズに存在する多様な意義及び課題の検討、2. 自治的な資源管理・保全の実践例から得た知見を実際の環境政策や現場に（特に日本）役立てうる方法論と課題の検討の二点である。

## 3. 研究の方法

(1) 国内外におけるコモンズ研究の包括的サーベイを行うとともに、(2) 国内外でのフィールドワーク調査を通じコモンズに関する学術的知見を蓄積することとした。(1)については、これまでオストロムを中心とする北米におけるコモンズ研究との接点を図るべく国際シンポジウムやセミナーを開催し、その結果の公表に努めた。(2)に関しては、とりわけコモンズ研究の議論上十分には扱われてこなかった「先進諸国」におけるオープンスペース、パブリックフットパス、万人権などの「開放型コモンズ」を事例研究として取り込んだ。他方、国内のコモンズ研究の課題となってきた法学領域（とりわけ法社会学）との共同的研究の体制を強めつつ研究を進展させた。

## 4. 研究成果

本研究の成果は次の6点にまとめうる。

(1) 入会を含めコモンズ（各小地域）は、歴史的に、資源保全・地域自治の運営主体として、各地域社会に適した形で機能してきた制度であり、現在も時代の変化に対応しながら、その形態や内部の仕組みを変容させながら数多く存続している。

(2) しかし、グローバリゼーション（それを支え持つ官と個の肥大化）は、コモンズ（制度・組織とその対象たる天然資源の双方）を大きく減退させ、その趨勢は抗しがたいほどの強靭さを有する。それらがもたらすインパクトには、コモンズに対応可能なものもあれば、そうでないものもある。とりわけ問題になるのは後者である。

(3) グローバリゼーションの進む現代において、コモンズの領域を健全に保つには、二つの戦略が模索しうる。ひとつは、(A)「グローバル化に対抗する」戦略、他方は (B)

「グローバル化に対応する」戦略である。前者は伝統的な地縁に基づく共同性の回復・再生を促進していくものであり、後者は地縁を越えた協業関係を促進・強化していくものである。

(4) これら両戦略に共通して重要なこととして、

①コモンズをめぐる複数のアクターが共通の目標を設定すること

②その目標の達成を実現させるような制度（組織）を構築すること

③それをいかにうまく機能させるかが大きな課題となることが判明した。

(5) 本研究ではさらに、強い外部インパクトがコモンズを衰弱・解体に追いやるケースがある場合（たとえば、巨大公共事業やディベロッパーによる大規模乱開発）には、コモンズが外部インパクトに対し対抗する (C) 抵抗戦略を講ずる必要があることを示唆した。本研究では、そのような戦略を支えるレジティマシーについても議論を深め、コモンズ存立の正当性として、自然環境自体の持つ公共性と外部性を挙げるに至った。

(6) 環境資源管理戦略として (A) (B) を止揚・統合した協治戦略と (C) 抵抗戦略との補完戦略を機能させる可能性を一つの結論として得た一方、同戦略論の理論的・実証的検証が今後の残された課題となった。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計14件）すべて査読有り

1. Takeshi Murota, and Irina Glazyrina, Common-pool resources in East Russia: A case study on the creation of a new national park as a form of community-based natural resource governance, *Environmental Economics and Policy Studies*, 11, 2010, 37-52
2. 菅豊、現代アメリカ民俗学の現状と課題—公共民俗学 (Public Folklore) を中心に—、*日本民俗学*, 263, 2010, 94-126
3. 嶋田大作・室田武「開放型コモンズと閉鎖型コモンズにみる重層的資源管理—ノルウェーの万人権と国有地・集落有地・農家共有地コモンズを事例に一」*財政と公共政策*, 32 (2), 2010, 77-91
4. 梶本歩美、フィリピンにおける森林政策の分権化と実施過程、*林業経済*, 63 (3) 2010, 1-16
5. 河合真之・井上真、大規模アブラヤシ農

- 園開発に代わる「緩やかな産業化」の可能性：東カリマンタン州マハカム川中上流域を事例として、林業経済、63 (7) 2010、1-17
6. 目黒 紀夫、地元住民が野生動物保全を担う可能性—ケニア南部・マサイランドにおける事例から、環境社会学会研究、16、2010、109-123
  7. Utako Yamashita, Kulbushan, Balooni, and Makoto Inoue, Effect of Instituting “Authorized Neighborhood Associations” on Communal (Iriai) Forest Ownership in Japan, Society and Natural Resources, 22, 2009, 464-473
  8. Iwasaki S and Shaw R, Fishery Resource Management in Chilika Lagoon: A Study on Coastal Conservation in the Eastern Coast of India, Journal of Coastal Conservation, 12, 2008, 43-52
  9. Tapan K. Nath and Makoto Inoue Why did the project fail to achieve its objectives in some villages?: The Experience of the Upland Settlement Project (USP) of Bangladesh. The International Journal of Sustainable development and World Ecology, 15 (2), 2008, 153-169
  10. Juan M. Pulhin and Makoto Inoue Dynamics of Devolution Process in the Management of the Philippine Forests. International Journal of Social Forestry, 1 (1), 2008, 1-26
  11. Mangala de Zoysa and Makoto Inoue, Forest Governance and Community Based Forest Management in Sri Lanka: Past, Present and Future Perspectives. International Journal of Social Forestry, 1 (1), 2008, 27-49
  12. Ndan Imang, Makoto Inoue, and Mustofa Agung Sardjono, Tradition and the Influence of Monetary Economy in Swidden Agriculture among the Kenyah People of East Kalimantan, Indonesia. International Journal of Social Forestry, 1 (1), 2008, 61-82
  13. SAITO, Haruo and G. MITSUMATA, Bidding Customs and Habitat Improvement for Matsutake (*Tricholoma matsutake*) in Japan. Economic Botany, 62 (3), 2008, 257-268
  14. 泉 留維、岐路に立つ地域通貨、都市問題、97 巻 7 号、2006、50-57
- [学会発表] (計 7 件)
1. 菅豊、日本記紀神話中的創世場景、中国民俗学会、青海省社会科学院他主催シンポジウム「崑崙神話與世界創世神話國際學術論壇」、2011 年 7 月 18 日、中国・西寧市
  2. 菅豊、民俗学学科建設的困難性—来自日本、美国、德国的民俗学比較—、中国民俗学会 2011 年年次大会、2011 年 10 月 29 日、中国・濰坊市
  3. SAITO, Haruo, Administrative centralization threatens commons-owning municipal sub-unit: Property Wards (zaisanku) in Toyota City, Japan. The 13th Biennial Conference of the International Association for the Study of Commons, 2011 年 1 月 14 日 MCRHRDI (Hyderabad, India)
  4. Makoto Inoue, Prototype Design Guidelines for 'Collaborative Governance' of Natural Resource, 13th Biennial Conference of the International Association for the Study of the Commons 2011 年 1 月 12 日 MCRHRDI (Hyderabad, India)
  5. Ayumi Sugimoto Decentralization and Ignored Local Dynamics: A Case Study on CBFM in the Philippines 13th Biennial Conference of the International Association for the Study of the Commons January 11, 2011 MCRHRDI (Hyderabad, India)
  6. Masayuki Kawai “Moderate Industrialization” and Commons: Alternative Development Strategy to Oil Palm Plantation in East Kalimantan, Indonesia, 13th Biennial Conference of the International Association for the Study of the Commons 12th January 2011 MCRHRDI (Hyderabad, India)
  7. Meguro, T. Management of wildlife

as a fugitive natural resource: A case of wildlife conservation in a savanna ecosystem in Africa, International Association for the Study of the Commons 2011年1月14日 MCRHRDI (Hyderabad, India)

〔図書〕(計9件)

1. Murota, T and K. Takeshita, Local Commons and Democratic Environmental Governance, United Nations University Press, 2013年
2. 泉留維・齋藤暖生・浅井美香・山下詠子 『コモンズと地方自治 ―財産区の過去・現在・未来―』日本林業調査会、2011年.
3. 山下詠子 『入会林野の変容と現代的意義』東京大学出版会、2011年.
4. 三俣学・菅豊・井上真編著『ローカル・コモンズの可能性』ミネルヴァ書房、2010年.
5. 三俣学・菅豊・井上真編『ローカル・コモンズの可能性―自治と環境の新たな関係―』ミネルヴァ書房、2010年、384
6. 室田武編著『グローバル時代のローカル・コモンズ』ミネルヴァ書房、2009年.
7. 三俣学・森元早苗・室田武編著『コモンズ研究のフロンティア―山野海川の共的世界』東京大学出版会、2008年.
8. 井上真編『コモンズ論の挑戦：新たな資源管理を求めて』新曜社、2008年
9. 菅豊『川は誰のものか―人と環境の民俗学―』吉川弘文館、2006年

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

室田 武 (MUROTA TAKESHI)  
同志社大学・経済学部・教授  
研究者番号：40104749

### (2) 研究分担者

泉 留維 (IZUMI RUI)  
専修大学・経済学部・准教授  
研究者番号：80384668

井上 真 (INOUE MAKOTO)

東京大学・農学生命科学研究科・教授  
研究者番号：10232555

太田 出 (OTA IZURU)  
広島大学・文学部・准教授  
研究者番号：10314337

大野 智彦 (OHNO TOMOHIKO)  
阪南大学・経済学部・准教授  
研究者番号：30531884

齋藤 暖生 (SAITO HARUO)  
東京大学・農学生命科学研究科・助教  
研究者番号：10450214

篠原 徹 (SHINOHARA TORU)  
滋賀県立琵琶湖博物館・館長  
研究者番号：80068915

菅 豊 (SUGA YUTAKA)  
東京大学・東京文化研究所・教授  
研究者番号：90235846

鈴木 龍也 (SUZUKI TATSUYA)  
龍谷大学・法学部・教授  
研究者番号：30196844

三井 昭二 (MITSUI SHOZI)  
三重大学・生物資源学研究科・教授  
研究者番号：20262991

三俣 学 (MITSUMATA GAKU)  
兵庫県立大学・経済学部・准教授  
研究者番号：10382251

山本 信次 (YAMAMOTO SHINJI)  
岩手大学・農学部・准教授  
研究者番号：80292176